

令和8年度

小学校
中学校
義務教育学校
特別支援学校

キャリアアップ研修Ⅲの手引

※平成30年度より「キャリアアップ研修」を
「キャリアアップ研修Ⅲ」と名称変更しました

長野県教育委員会

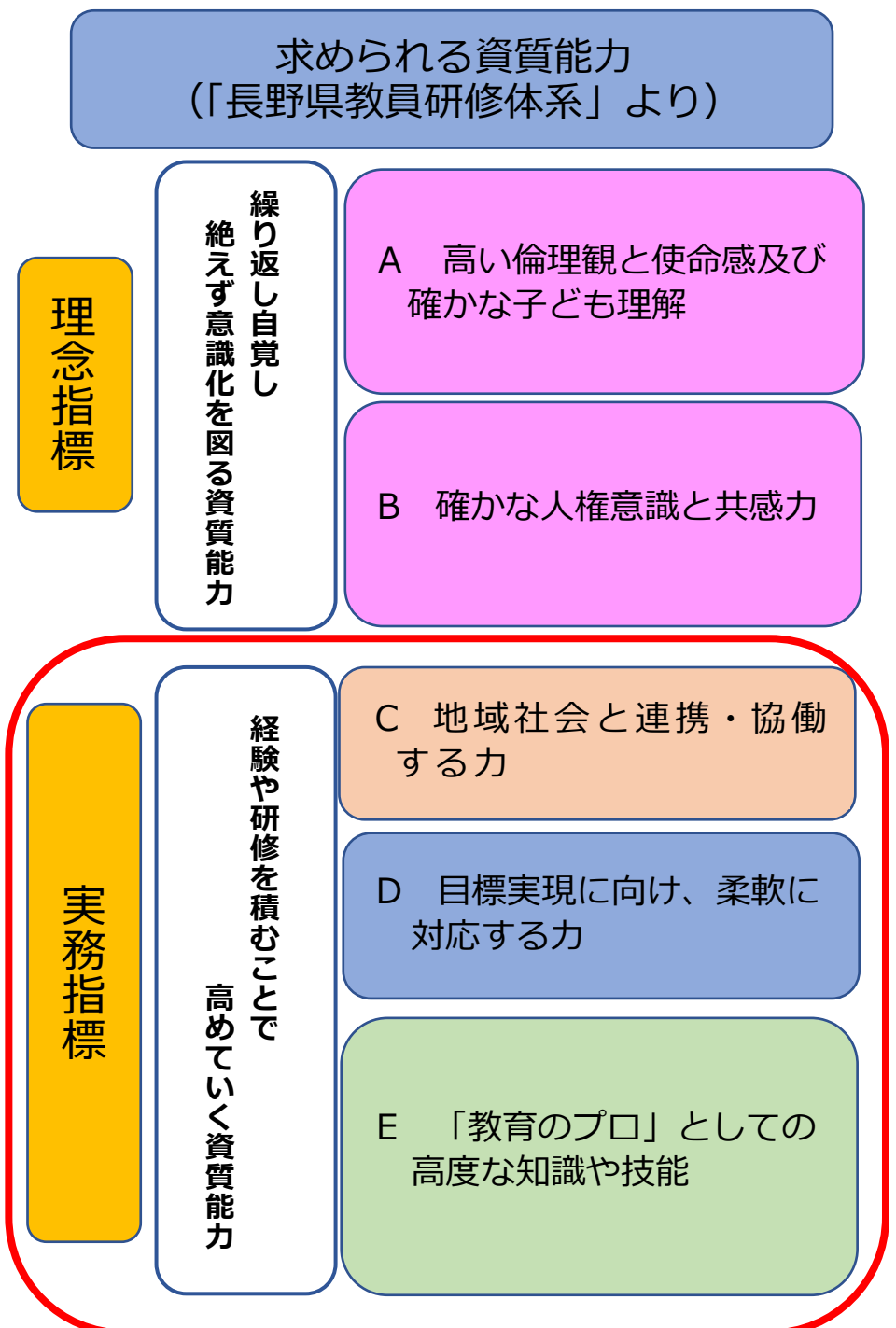
1 教員育成指標作成の経緯

「長野県教員研修体系」（平成 25 年 11 月策定）には、長野県の教員に求められる資質能力として、次の A～E の資質能力が示されています。

- A 高い倫理観と使命感及び確かな子ども理解
- B 確かな人権意識と共感力
- C 地域社会と連携・協働する力
- D 目標実現に向け、柔軟に対応する力
- E 「教育のプロ」としての高度な知識や技能

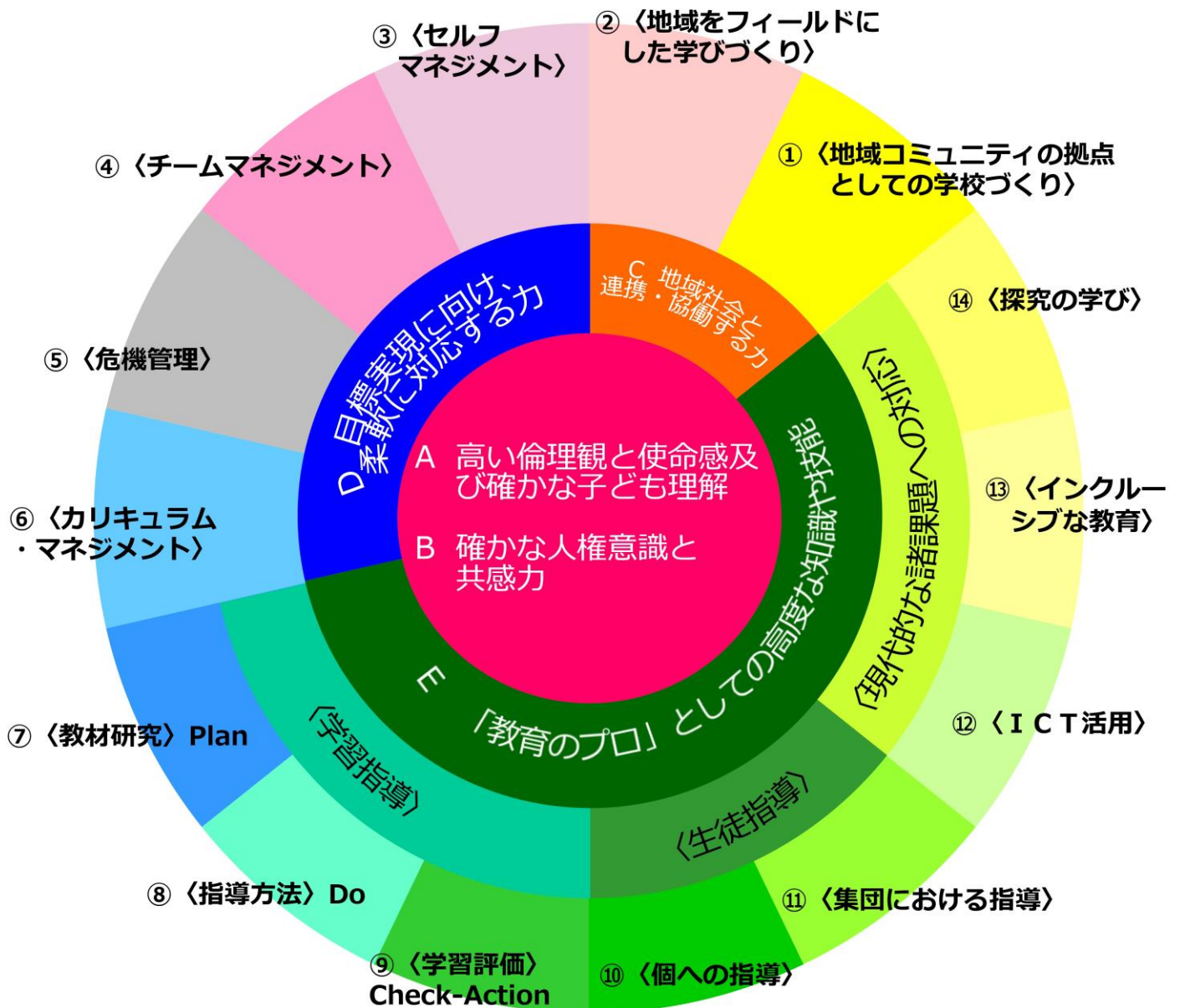
この「求められる資質能力」を「理念指標」と「実務指標」に分けました。「理念指標」とは、繰り返し自覚し絶えず意識化を図る資質能力であり、「実務指標」とは、経験や研修を積むことで高めていく資質能力です。

このうち、「実務指標」について、キャリアステージに応じて高まるものとし、項目化することにしました。



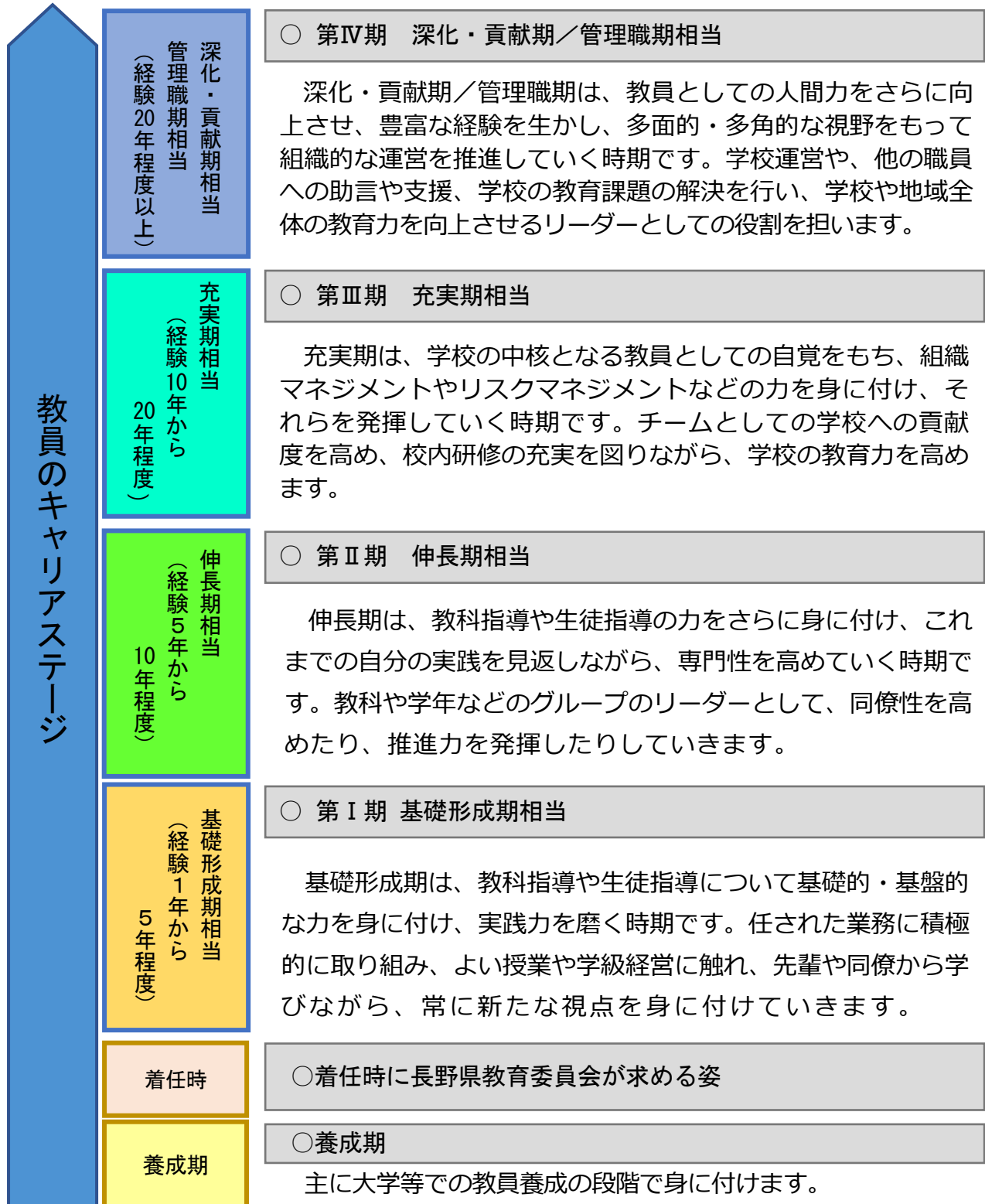
2 実務指標を支える14のスキル

5つの求められる資質能力について、下図のように整理しました。まず、繰り返し自覚し絶えず意識化を図る、「A 高い倫理観と使命感及び確かな子ども理解」、「B 確かな人権意識と共感力」の2つの資質能力を中核にし、教職キャリアの基盤としました。次に、その周囲に、経験や研修を積むことで高めていく、「C 地域社会と連携・協働する力」、「D 目標実現に向け、柔軟に対応する力」、「E 「教育のプロ」としての高度な知識や技能」の3つの資質能力を配置しました。さらに、これらを支えるスキルとして、14のスキルを位置付けました。



3 教員のキャリアステージ

長野県では、教員のキャリアステージを「養成期」、「基礎形成期」、「伸長期」、「充実期」、「深化・貢献期／管理職期」に区分し、それぞれのキャリアステージの高まりを示しています。スキルの向上は、必ずしも年代や経験年数によるものではないので、「相当」という言葉を用いて幅をもたせています。



教員育成指標では、それぞれの資質能力を支えるスキルごとに、「チームとしての学校」の一員として、教員が各ステージで果たす役割に着目してスキルの高まりを表しています。第Ⅰ期、第Ⅱ期は、主に知識・技能の熟達を期待し、第Ⅲ期、第Ⅳ期は、主にチームへの貢献度が高まることを期待しています。

(図1)

また、第Ⅰステージが土台となり、それに第Ⅱ、第Ⅲ、第Ⅳステージが積み重なってスキルが高まっていくことをイメージして表しています。(図2)

図1

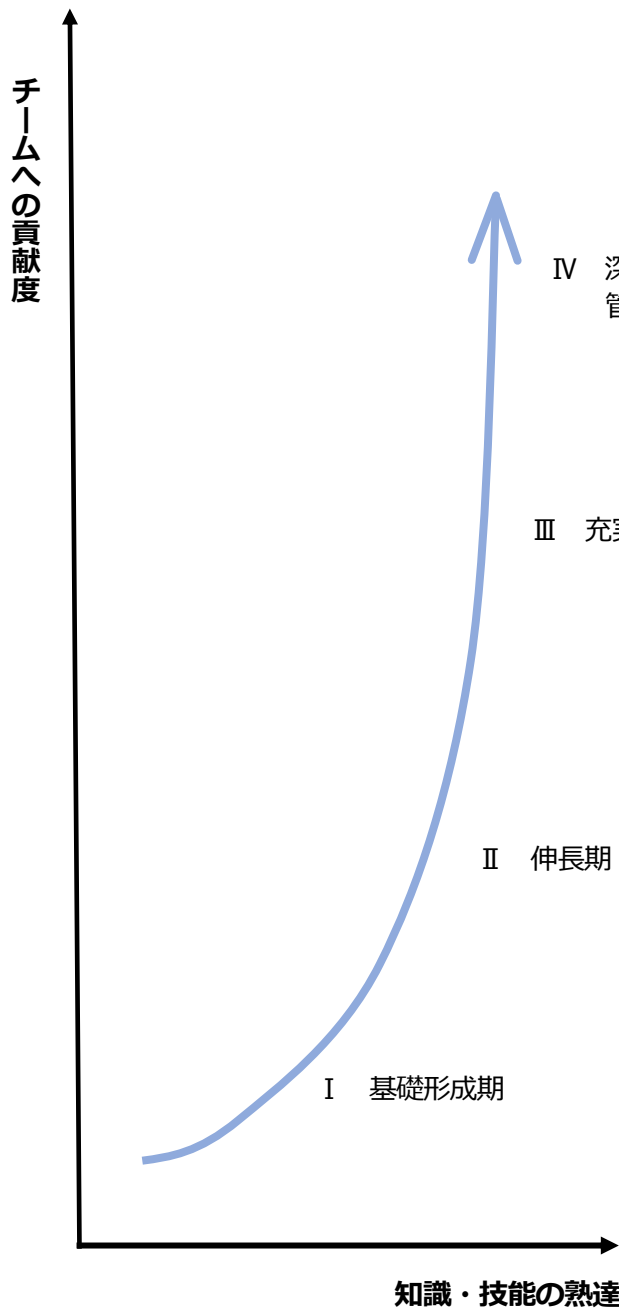
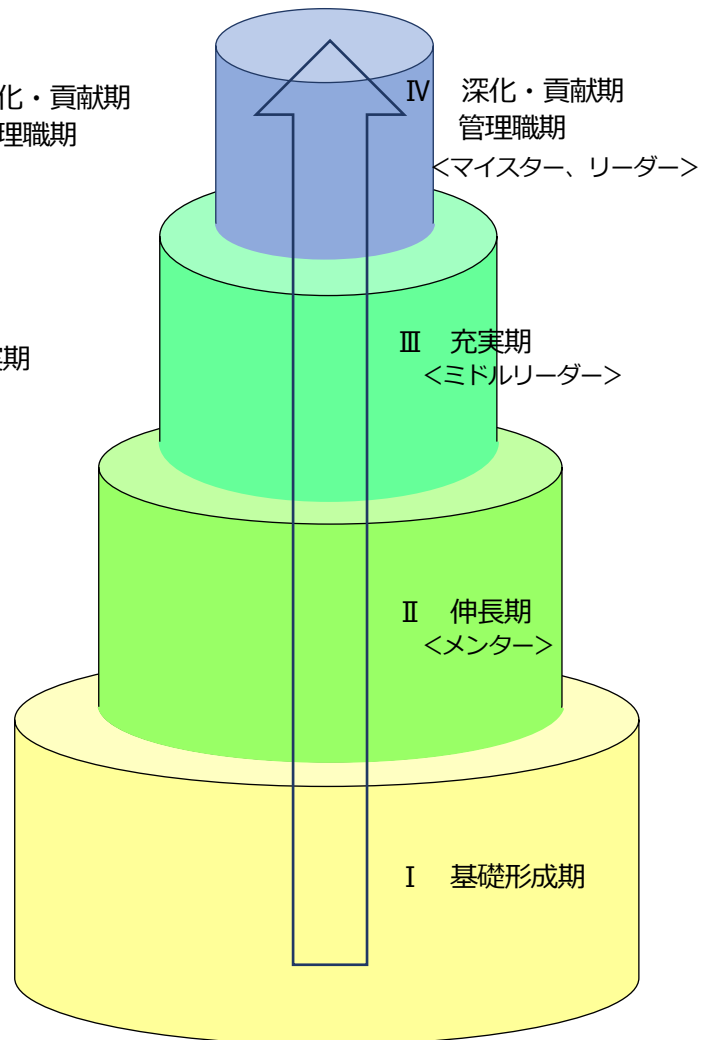


図2



長野県教員育成指標

C 地域社会と連携・協働する力

○地域社会の発展に主体的に寄与する力 ○郷土を愛し、地域の自然、歴史、文化及びそこに住む人々を尊重する態度

資質を支えるスキル	①<地域コミュニティの拠点としての学校づくり> 地域連携によるキャリア教育	②<地域をフィールドにした学びづくり>
IV 深化・貢献期相当 管理職期相当 (経験20年程度以上)	<ul style="list-style-type: none"> 地域と協働して児童生徒を育てる中で、地域コミュニティの拠点として、地域の活力・教育力の向上に貢献する。 <p>子どもたちが地域社会の一員として自らの可能性を広げられる学校づくりを推進し、地域や行政と連携して、子どもが自分らしい生き方を考える教育の仕組みを構築・発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校と地域、学校間をつなぐネットワークを構築し、地域貢献につながる教育活動を展開する環境を整える。
III 充実期相当 (経験10年から20年程度)	<ul style="list-style-type: none"> 運営委員会と協働して活動を推進する中で、学校と地域が願いを共有して学校づくりに取り組みめるようにする。 <p>子どもたちが社会や職業に関する体験的な学習を行い、地域の人々とともに学ぶ機会を中心に据えた教育活動をリードする。保護者や地域の人々との連携を積極的に図り、学校全体で地域資源を活用した自らの生き方を考えるキャリア教育を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域をフィールドにした学習を推進するリーダーとして、自校・近隣校での実践の充実寄与する。
II 伸長期相当 (経験5年から10年程度)	<ul style="list-style-type: none"> 学習支援ボランティアの活用など、地域の人的・物的資源を効果的に組み合わせて教育課程を編成する。 <p>子どもたちの発達段階や生活背景を踏まえ、教科指導と体験的な学びの連携を意識した支援を工夫する。また、同僚と協働し、地域の人々や保護者とともに、子どもたちが多様な生き方を考えるきっかけとなる学びの場づくりに取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域の課題を発見したり解決策を提案したりする学習を通して、児童生徒が郷土への誇りや郷土の一員としての自覚を深められるようにする。
I 基礎形成期相当 (経験1年から5年程度)	<ul style="list-style-type: none"> 地域の活動や行事に積極的に参加したり、地域の方々と交流したりして、地域理解に努める。 <p>子どもたちの学びと社会とのつながりを見通すキャリア教育の視点をもち、地域の人々との関わりや実社会における体験的な学びの意義を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域素材を教材化したり、地域での体験学習を取り入れたりして、児童生徒が地域を理解し、そのよさを実感できるようにする。
着任時に長野県教育委員会が求める姿	同僚や保護者、地域の方々と協力し、共に汗を流し行動する人	
養成期	<ul style="list-style-type: none"> グローバルな視野をもつとともに、郷土への関心意欲を深める。 地域社会への一員として自分の役割に責任をもち、地域の活動に主体的に参画し、地域貢献に寄与する。 	

D 目標実現に向け、柔軟に対応する力

○知識や技能を常に刷新しようとする意欲や態度 ○同じ目的に向かってチームで対応する力

資質を支えるスキル	③<セルフマネジメント>	④<チームマネジメント>	⑤<危機管理>	⑥<カリキュラム・マネジメント>
IV 深化・貢献期相当 管理職期相当 (経験20年程度以上)	<ul style="list-style-type: none"> 教員のロールモデルとしての役割を自覚し、自らの専門性や経験に基づいて、後進の指導にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員一人一人がもっている力を引き出し、学校教育目標の達成を目指す組織文化を醸成する。 「チーム学校」の実現を通じて、複雑化・多様化した課題を解決に導いたり、教員が児童生徒と向き合う時間的・精神的な余裕を確保したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理マニュアルを策定し学校の危機管理体制を整え、リスクの低減や危機発生時の的確な対応について、組織的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒や地域の特性等に基づき学校教育目標を設定し、その達成を実現する教育課程編成の方針を策定する。 学校教育目標の達成に向けて、学校や地域が持っている人的・物的資源等を効果的に組み合わせる。
III 充実期相当 (経験10年から20年程度)	<ul style="list-style-type: none"> 職務に関する最新の動向を把握したり、自分が得意とするスキルを磨いたりして、力量向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営に積極的に参画し、自校の教育活動の状況を的確に把握しながら、校内の様々なチームや外部の専門職との連携・調整を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 発生事例やヒヤリハット事例を収集・分析するなどの研修を企画したり、危機を想定した訓練を行ったりして、学校の危機管理能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒や地域の状況に関するデータ等に基づき、教育課程の編成・実施・評価・改善を行う一連のPDCAサイクルを確立する。
II 伸長期相当 (経験5年から10年程度)	<ul style="list-style-type: none"> 自らの教職キャリアを俯瞰し、強みと課題を明らかにして今後の目標を設定し、日々の教育実践に具体化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年経営や教科経営に積極的に参画し、メンバーと意思疎通を図りながら、既存概念にとられないアイデアを提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> 職場内での同僚性を高め、情報を共有したり、危機管理やコンプライアンスについて話題にしたりする風土を醸成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標の達成に向けて、教科等横断的な視点で、教育内容を組織的に配列する。
I 基礎形成期相当 (経験1年から5年程度)	<ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランスを重視し、健康や時間を自ら管理しながら、職務に向かうコンディションを維持する。 自己課題に沿った研修を実施し、周囲の助言や自己の振り返りをもとに、成長し続けようと努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> チームの一員としての自己の役割を自覚し、任せられた職務に対して誠実に取り組む。 チームの目標を理解し、同僚と協力して目標実現に向けて努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 信頼される学校を実現する上で、危機管理やコンプライアンスが欠かせないことを理解し、危機の未然防止や発生時の対応に確実に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の教育活動を「目標-内容-方法-評価」のセットで捉え、意図的・計画的に実践する。
着任時に長野県教育委員会が求める姿	創造性と積極性があり、常に向上し続けようとする、心身のたくましさをもっている人			
養成期	<ul style="list-style-type: none"> 自分の学びにおいて振り返り、成長する姿を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者と協働して教育活動に取り組む社会的スキルを身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理の基本的な原則を理解し、リスク・マネジメント、クライシス・マネジメントを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・マネジメントにおける教師の役割を理解し、実習校の教育課程の概要を学ぶ。

E 「教育のプロ」としての高度な知識や技能

○教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践する力 ○グローバル化、情報化、特別支援教育等の課題に対応する力

資質を支えるスキル	<学習指導>		
	⑦教材研究 (Plan)	⑧指導方法 (Do)	⑨学習評価 (Check-Action)
IV 深化・貢献期相当 管理職期相当 (経験20年程度以上)	・自らの専門性や経験を生かして、学校全体の教材研究の質を高める。	・自らの専門性や経験を生かして、学校全体の指導方法の質を高める。	・自らの専門性や経験を生かして、学校全体の学習評価の質を高める。
III 充実期相当 (経験10年から20年程度)	・教科会や学年会で教材研究を行う時間を確保するとともに、教材研究の仕方を学校全体でそえる。	・校内で互いに授業を見合う機会を設定し、創意工夫に基づく指導方法の不断の見直しに学校全体で取り組む。	・様々な教育活動で行われている学習評価を関連付け、学校全体の学習の成果を的確に捉え、教育課程の改善に生かす。
II 伸長期相当 (経験5年から10年程度)	・個々の児童生徒の学びの特性や状況に応じ、既得の知識や技能を活用して課題を解決する学習過程を構想する。	・学習指導と生徒指導の両面から児童生徒の学びを捉え、対話的な関わりを通して、児童生徒がメタ認知能力を発揮しながら「学びに向かう力」を高めていくようにする。	・「パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」など、多様な評価方法を用いて児童生徒の学びの深まりを把握し、学習・指導の改善に生かす。
I 基礎形成期相当 (経験1年から5年程度)	・教科等の特質に応じた「見方・考え方」を活用して、「知識及び技能」を確実に身に付ける授業を構想する。 ・「習得-活用-探究」の学びの過程を通して、児童生徒が「思考力、判断力、表現力等」を高めていく単元を構想する。	・「授業がもっとよくなる3観点」や「信州“Basic”」を踏まえた授業を確実に行う。 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点から、授業改善に取り組み、児童生徒の個性に応じた質の高い学びを引き出す。	・「目標に準拠した評価」により一人一人の学習状況を把握し、適切なフィードバックを行って内容の確実な定着を図る。 ・児童生徒が自己評価を行うことを学習活動に位置付け、学習内容の価値や自己の高まりに気付かせる。
着任時に長野県教育委員会 が求める姿	幅広い教養と教科等の専門的な知識・技能を持ち、柔軟に対応することができる人		
養成期	・教科に関連した学問的知識や専門的技術を磨き、学習指導要領に記載された内容を理解するとともにねらいに応じた授業案を構想する。 ・一人一人の学びを適切に評価し、その情報を授業に生かすスキルを学ぶ。		

資質を支えるスキル	<生徒指導>*不登校対応含む		<現代的な諸課題への対応>		
	⑩個への指導	⑪集団における指導	⑫ICT活用	⑬インクルーシブな教育 *日本語指導教育含む	⑭探究の学び
IV 深化・貢献期相当 管理職期相当 (経験20年程度以上)	・関係機関との連携を強化するとともに、教員一人一人の役割を明確にした校内指導体制を構築し、その推進にあたる。 ・不登校支援に関する校内体制を整備し、関係機関との連携を強化して、学校全体での対応を推進する。	・児童生徒が所属する校内の様々な集団の状況を把握し、学校全体で改善・向上に取り組む。 ・学校全体で一人の子どもを取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境づくりを推進し、教育課程や校内体制の整備を主導する。	・児童生徒に応じ、学校の情報化を進めるためのロードマップを策定し、実現を目指す。 ・保護者や地域、関係機関と連携し、情報モラルの指導を体系的に推進する。	・地域の支援者との連携等を強化し、課題解決に向けた体制を構築するとともに、インクルーシブな教育の取組等の情報を地域へ発信する。 ・地域や関係機関と連携しながら、日本語教育を含むインクルーシブな教育環境の整備を主導し、学校教育の質の向上と教育的課題の解決に貢献する。	・「探究の学び」を中核に位置付けた教育課程を編成したり、人的・物的資源を組み合わせ支援体制を構築したりする。
III 充実期相当 (経験10年から20年程度)	・児童生徒の状況を日常的に把握し、適時性のある指導方針を示したり、ケース会議の充実を図ったりして、学校全体の生徒指導をリードする。 ・校内体制の中核として、ケース会議等を通じて支援の質を高める。	・自らの実践を通して、校内における望ましい集団づくりをリードする。 ・学校の風土の改善に向けた取組を校内で推進し、児童生徒の安全・安心な学びの場を確保する。	・教員のICT活用指導力を把握し、校内研修を計画的に行ったり、一人一人の実態にあった研修の内容や方法をアドバイスしたりして、教員の指導力を高める。	・自発的・自治的に活動できる集団づくりをする。 ・アセスメントの知見を活かし、同僚への指導助言や実践の発信等を通して校内の特別支援教育の充実を図るとともにインクルーシブな教育をリードする。 ・学校全体で多様な言語文化背景をもつ児童生徒を支える体制づくりを推進し、教職員間の共通理解を深めるとともに、地域や保護者との協働を図る。	・「探究の学び」を推進するリーダーとして、自校・近隣校での実践の充実や教員の専門性の向上に寄与する。
II 伸長期相当 (経験5年から10年程度)	・コーチングスキルを身に付け、児童生徒自身の主体的な判断や自己決定を促すなど、一人一人のキャリア形成につながる指導に努める。 ・不登校の要因を多面的に捉え、関係機関や保護者と連携しながら、個別支援計画を立案・実施する。	・様々な教育活動との関連付けを図り、児童生徒の生活や学習の基盤としての集団の機能を高める。 ・多様な背景をもつ児童生徒が共に学べる集団づくりを推進し、居場所づくりに取り組む。	・ICT端末やクラウド等を活用した実践事例を蓄積し、校内で共有する仕組みをつくらせたり、同僚の相談にのったりしてICT端末やクラウド等の活用を校内に広げる取組を行う。	・児童生徒への理解力を高めるとともに、多様性を認め共に成長する集団づくりに同僚と協働して取り組む。 ・アセスメントについての知見を身に付け、必要に応じて活用する。 ・日本語指導が必要な児童生徒の学びを支えるために、教科指導と連携した支援の工夫や、校内外の支援体制との連携を意識した実践を行う。	・学習プランを開発したり、ポートフォリオ評価に用いるルーブリックを作成したりして、校内での「探究の学び」の推進を支援する。
I 基礎形成期相当 (経験1年から5年程度)	・児童生徒の内面を共感的に理解し、信頼関係を構築する。 ・保護者や同僚と連携し、児童生徒を取り巻く環境や抱えている課題を的確に把握し、指導に生かす。 ・不登校傾向のある児童生徒の背景を理解し、信頼関係の構築を通して安心できる居場所づくりに努める。	・集団生活を送る上でのルールづくり、人間関係づくりを通して、児童生徒の社会的スキルを高める。 ・自発的・自治的な活動を重視し、児童生徒の集団への所属感や連帯感、問題解決力を高める。 ・集団活動に参加しづらい児童生徒への配慮を行い、安心して所属できる環境づくりに意識する。	・学習目標の達成や校務の効率化に向け、ICT端末やクラウド等を効果的に活用する。 ・児童生徒の発達段階に応じ、具体例に基づいた情報モラルの指導を行う。	・認知などの特性や発達障がい、合理的配慮等に関する基本的な知識や考え方を身に付け、児童生徒の実態や教育的ニーズを踏まえ一人一人に応じた支援を行う。 ・授業のユニバーサルデザイン化に取り組む。 ・多様な言語背景をもつ児童生徒の実態を理解し、適切な配慮や支援を行うための基本的な知識と姿勢を身に付ける。	・探究の過程を生み出す手法を身に付け、ファシリテーターとして「探究の学び」の実現に取り組む。 ・児童生徒や地域の実態に基づき、総合的な学習の時間(小中)、総合的な探究の時間のねらいを実現する学習プランを作成する。
着任時に長野県教育委員会 が求める姿	幅広い教養と教科等の専門的な知識・技能をもち、柔軟に対応することができる人				
養成期	・子ども理解に努め、一人一人のよさを認める姿勢を培うとともに、子どもの置かれている背景について理解を深め、適切な指導法を学ぶ。 ・ICT端末やクラウド等の授業への活用とその効果を知り、基本的な操作ができる。 ・様々な課題に関心をもち続け、その背景を理解するとともに、実践と理論を往還した最新の指導方法を学ぶ。				

E 「養護教諭」としての高度な知識や技能

○保健管理、保健教育、健康相談/保健指導等を的確に実践する力

資質を支えるスキル	<保健管理>	<保健教育>	<健康相談/保健指導>
IV 深化・貢献期相当 管理職期相当 (経験20年程度以上)	<ul style="list-style-type: none"> 関係諸機関との協働体制をコーディネートし、教育活動の円滑な実施と保健管理の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導的立場で保健教育を組織的に推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の心身の健康課題の解決に向けた計画的・組織的な健康相談・保健指導において、指導的役割を果たす。
III 充実期相当 (経験10年から20年程度)	<ul style="list-style-type: none"> 保健管理の充実に向けに保護者や関係機関と連携して組織的に取り組み、コーディネーター的な役割を果たす。 ICT端末やクラウド等を活用し、地域や保護者、関係機関と連携しながら、効果的な取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科横断的な指導を取り入れる。 児童生徒の実践力に結びつく効果的な保健教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別の健康課題の解決に向け、児童生徒の意思決定力や自己解決能力の育成を図る。 学校内外の関係者との即応的継続的な相談支援体制の構築においてコーディネーターの役割を果たす。
II 伸長期相当 (経験5年から10年程度)	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒のけがや疾病及び感染症の流行などの未然防止、再発防止について教職員の共通理解を図り組織的に推進する。 特別な配慮を要する児童生徒の学校生活上のニーズを踏まえ、安心・安全な学校生活を送れるよう支援体制を構築する。 ICT端末やクラウド等を活用した保健管理の実践事例を蓄積し、校内で共有する取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が自分の健康課題に気付き、主体的に取組む態度を養う保健教育を推進する。 家庭・地域と連携して健康課題を捉え、探究的学びを取り入れた指導方法で実践・評価・改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康相談・保健指導に必要な援助資源の情報を収集・活用し、関係者間のネットワークを構築する。 教育相談係や特別支援教育コーディネーターと連携し、チームとして対応する。 ICT端末やクラウド等を活用した健康相談・保健指導の充実を図る。
I 基礎形成期相当 (経験1年から5年程度)	<ul style="list-style-type: none"> けがや疾病の症状を的確に見極め、受診の必要性などについて適切に判断し、迅速に対応する。 救急体制を整備し、関係機関と連携しながら組織的に対応する。 児童生徒の健康上の課題を早期に発見し、適正な保健管理を行う。 特別な配慮を要する児童生徒について関係機関と連携し保健管理を行う。 保健管理の効率化に向け、ICT端末やクラウド等を効果的に活用する。 健康情報や公文書を適正に管理する。 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラム・マネジメントの視点を生かし、保健教育の年間指導計画の作成に参画する。 児童生徒の実態や科学的根拠を踏まえ、学級担任等と連携しながら保健教育を行う。 ICT端末やクラウド等を活用した保健教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康課題の背景の把握、支援方針・支援方法の検討、学校内外の連携というプロセスを理解する。 個別の健康課題を捉え、発達段階に応じた課題解決に向けて、健康相談・保健指導を行う。 特別な配慮を要する児童生徒のニーズを見極めた健康相談・保健指導を行う。
着任時に長野県教育委員会 が求める姿	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健安全法を理解し、保健管理における基礎的な知識と技術を身につけ、実践しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領を理解し、学校保健計画に基づいて保健教育の充実に取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健安全法による健康相談の位置付けと養護教諭の役割を理解し、心身の発達段階における健康課題を把握しようとする。
養成期	<ul style="list-style-type: none"> 保健管理(救急処置、健康診断、健康観察、疾病管理、学校環境衛生)の意義と目的を踏まえた上でその内容と方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健教育の意義と目的を踏まえた上で、その内容と指導方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康相談・保健指導の意義と目的を踏まえた上で、児童生徒と保護者への対応方法を理解する。

資質を支えるスキル	<保健室経営>	<保健組織活動>	<安全管理・危機管理>	<研究・研修>
IV 深化・貢献期相当 管理職期相当 (経験20年程度以上)	<ul style="list-style-type: none"> 学校の課題解決に向けて、保健室経営を行うことで、学校運営に貢献する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の健康課題解決に向けたマネジメント力を発揮し、地域の関係者と連携して活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平常時の安全確保、事故等の未然防止・再発防止を組織的にを行い、リーダー的役割を果たして安全管理の充実を図る。 養護教諭の専門性に基づき、安全管理体制について助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの実践や経験を検証し言語化することで、成果を次世代に継承する。 導き出された成果を同僚や仲間と共有し活用することで養護教諭の専門性を高める。 現代的健康課題や社会の変化に対応できるように自己研鑽に努める。
III 充実期相当 (経験10年から20年程度)	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健活動における保健室のセンター的役割を理解し、学校内外の関係者と連携しながら組織的な保健室経営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の健康課題解決のために、保護者や関係機関と効果的に連携・調整し、専門的な立場から積極的に企画・運営に参画する。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会や想定訓練の企画・運営を積極的に行い、学校の危機管理能力の向上を図り、危険を予見するとともに対処する。 事件・事故が発生した場合に適切かつ迅速に対処する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの養護実践を研究的にまとめ学校内外の関係者に発信する。 専門性を深化・拡充するための自己研鑽に努める。
II 伸長期相当 (経験5年から10年程度)	<ul style="list-style-type: none"> 保健室経営計画を全職員に周知し、理解と協力を得て組織的に保健室経営を行う。 学校教育目標の具現に向け、組織運営に積極的に参画し、保健室経営を工夫・評価・改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健主事とともに組織活動を積極的に推進し、活動の評価・改善を通して、児童生徒・教職員等が主体的に参加できる体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事故発生事例を分析し、学校環境や児童生徒の行動の改善に取り組む。 関係機関との連携を強化して学校の安全管理体制や危機管理体制を点検・整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題意識を持ち、仮説を立て検証する養護実践を行い、評価する。 学び続ける意欲を持ち、自己研鑽に努める。
I 基礎形成期相当 (経験1年から5年程度)	<ul style="list-style-type: none"> ICT端末やクラウド等を活用して情報を収集・分析し、主な健康課題について焦点化を図る。 学校教育目標や学校保健目標を踏まえ、児童生徒の健康課題に応じた保健室経営計画を作成し、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健組織活動の企画・運営に積極的に参画し、教職員と連携して学校保健活動を推進する。 健康課題を把握し、学校三師・関係諸機関・関係者等との連携・協力体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の実態や特性に配慮した学校環境や連携体制を整備する。 事故発生時には、関係者に報告・連絡を確実に行い、指示を仰ぎながら対応する。 事故発生事例を分析し、課題を明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒や学校の健康課題に対し、課題意識や研究疑問を見出す。 日常の実践から課題意識を持ち、課題解決や実践力の向上に向けて積極的に研修に参加する。
着任時に長野県教育委員会 が求める姿	<ul style="list-style-type: none"> 保健室の機能を理解し、保健室経営計画のもと、健康課題解決のための保健室経営に努めようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健組織活動の意義と学校内外の援助資源を理解し、円滑に推進しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健安全法に基づいた学校安全計画及び危機発生時対処要領を理解し、安全管理・危機管理に適切に取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修の意義を理解し研修への意欲を持ち取り組もうとする。
養成期	<ul style="list-style-type: none"> 保健室経営の意義と目的を踏まえた上で、保健室経営計画の作成方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健組織活動の意義と目的を踏まえた上で、その内容と連携・協働の方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理・危機管理の意義と目的を踏まえた上で、その内容と方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 養護教諭としての専門性を向上させる方法及び研究の必要性を理解する。



1 これまでの教員研修に対する先生方の声や課題

<先生方の声>

- 「授業について学びたい」「研修は大事だと思う」「先進的な取組をする先生の授業から学びたい」という声が多い。
- 「教室を空けることで他の先生に補充で迷惑をかける」、「そもそも研修に参加する時間がない」と、研修への参加に気兼ねしてしまうという声もある。
- 補充の準備や、学級を留守にした際の生徒指導等を心配することで、校外研修に消極的になってしまうという声もある。

<現在の教員研修体系の課題>

- 教員採用選考の志願倍率低下からも、**講師を含めた教員研修の一層の充実が必要**。
- 人事異動方針の変更に伴い採用地ブロックにおける異動が主となることから、**信州教育の強みを全県で継承・発展させていくことが困難**。
- コロナ禍以降、学校・郡市発の「学びの改革」が進む中、**長野県の教員研修体系が現場の先生方の求めに応えきれていない**。

2 これからの長野県の教員研修

対話を軸にした校内研修と、自ら求めつながりで深まる自律した長野県の教師の学びを実現する。

<長野県教員育成指標の改定>

文部科学省通知「指標の策定に関する指針の改正」（2025年2月）等に基づき、**不登校対応、日本語指導、地域連携によるキャリア教育の視点を** 長野県教員育成指標へ明確に

<県教育委員会としての取組>

1、日常的な校内研修を中心とした研修への転換

- 新たな教育課程研究協議会の位置付けによりミドルリーダーの資質能力の向上を図り、学校改革に係る校内研修の充実を図る
- 手軽で短時間のオンライン情報発信「信州まなびチャンネル！」の定期開催
- 先生方のつながりを深める「対話を軸にした校内研修」充実支援事業の実施

2、教師の挑戦を支えるネットワークづくり

- 先生方の課題意識に応じたオンラインチャット「ツナガリノハコ」の活用 等
- 経験年数の少ない先生方等への学びを手厚く支える訪問支援や教育事務所主催の参集研修の実施
- 自己探究型の先進校視察などで学ぼうとする先生方を支援

3、初任者研修・指定研修等の見直し

小学校・中学校

	従前	R8年度	
初任者研修	16日	12日	➢ 対話を軸にした自律した教師の学びを支えるために…指定研の校外研修を「わたしが選ぶ校外研修」へと整理するとともに、校内研修に還元できるような内容を充実
2年次研修	5日	4日	
キャリアアップ研修Ⅰ	4日	3日	
キャリアアップ研修Ⅱ	8日	6日	
キャリアアップ研修Ⅲ	3日	2日	

- **学校改革の推進やインクルーシブな教育の具現に向けて…**「TOCO-TON校の参観」や「多様な子どもたちへの対応、働き方改革の視点からの研修」を新設

4、教師の学びの時間の創出

- 教師の学びの時間を創出する教育課程編成の見直しの具体的なあり方を周知
- 未来の学校を創る校長等マネジメント力向上研修や、教頭マネジメント研修の内容刷新

高等学校

	従前	R8年度	
初任者研修	21日	19日	➢ 教師の主体的な学びを後押しするために教師が主体的に研修に臨めるよう、初任者研修では校外研修において「自ら計画する研修」の日数を増やし、対象講座の拡大と内容を充実
2年次研修	1日	1日	
キャリアアップ研修Ⅰ	3日	2日	
キャリアアップ研修Ⅱ	8日	7日	
キャリアアップ研修Ⅲ	2日	2日	

- **キャリアステージに応じた研修の一層の充実に向けて…**キャリアⅢ（20年目）では組織マネジメント等の観点から、自ら課題設定した研修ができるような体系を再構築

令和8年度 キャリアアップ研修Ⅲの手引 目次

I 研修の概要	
1	キャリアアップ研修Ⅲ実施要綱 3
2	キャリアアップ研修Ⅲの対象者について 5
II 研修の実施	
1	研修のねらい 7
2	研修一覧 7
3	研修の内容 7
(1)	研修の準備 7
(2)	研修の実施
①	「わたしが選ぶ」校外研修 8
②	校内研修 8
(3)	研修のまとめ 8
4	研修の欠席・休止等について 9
5	提出書類について 10
III 作成・提出書類(様式集)	
様式1	キャリアアップ研修Ⅲ(計画・報告書) 12
様式4	キャリアアップ研修Ⅲ報告書(休止者用) 13
様式第40号	指定研修猶予願 14
様式44	指定研修休止願 15
様式45	指定研修再開願 16
様式46	指定研修休止者 異動届 17
様式第60号	指定研修講座欠席・遅刻・早退届 18
資料	セルフチェックシート(キャリアアップ研修Ⅲ) 19

I

研修の概要

1 キャリアアップ研修Ⅲ実施要綱

長野県教育委員会

(趣旨)

第1 「長野県公立学校教員研修要綱」に基づき、採用から20年目（採用からの年数に、育児休業等のいわゆる除算は適用しない。以下同じ。）になる教諭及び養護教諭（以下、「教諭等」という。）に対する研修を実施する。

(実施)

第2 長野県教育委員会（以下「県教育委員会」という。）又は対象者が所属する学校を所管する市町村教育委員会及び市町村学校組合教育委員会（以下「市町村教育委員会」という。）は、採用から20年目になる教諭等を対象にキャリアアップ研修Ⅲを受けさせるものとする。

(対象者)

第3 キャリアアップ研修Ⅲの対象者は、公立の小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校において、採用から20年目になる教諭等とする。ただし、次の各号のいずれかに該当する者は除く。

- (1) 臨時的に任用された者
- (2) 他の任命権者が実施するキャリアアップ研修Ⅲと同等の研修を受けた者
- (3) 地方公共団体の一般職の任期付職員の採用に関する法律第3条第1項若しくは第2項、第4条又は第5条の規定により任期を定めて採用された者
- (4) 指導主事、社会教育主事その他教育委員会において学校教育又は社会教育に関する事務に従事した経験を有する者で、任命権者が当該者の経験の程度を勘案してキャリアアップ研修Ⅲを実施する必要がないと認める者
- (5) キャリアアップ研修Ⅱ（旧10年経験者研修/中堅教諭等資質向上研修）が修了していない者
- (6) 昭和49年4月1日以前生まれの者
- (7) その他県教育委員会が認めた者

(研修期間)

第4 研修を実施する期間は、指定された年度の1年間を原則とする。

(研修の猶予)

第5 県教育委員会は、対象者がキャリアアップ研修Ⅲに参加することが著しく困難と判断される場合は、当該対象者のキャリアアップ研修Ⅲを猶予することができる。

(研修内容)

第6 キャリアアップ研修Ⅲの研修内容等は、別表のとおりとする。

(研修計画等)

第7 対象者が所属する公立学校の長（以下「校長等」という。）は、対象者ごとにキャリアアップ研修Ⅲ計画書を作成し、県教育委員会又は市町村教育委員会（以下「関係教育委員会」という。）に提出する。

第8 関係教育委員会は、キャリアアップ研修Ⅲの実施状況を把握し、校長等に適切な指導・助言等を行う。

(研修報告等)

第9 校長等は、研修修了後、キャリアアップ研修Ⅲ報告書を作成し、関係教育委員会に提出する。

(その他)

第10 この要綱の他、キャリアアップ研修Ⅲに関する事項は、県教育委員会が別に定める。

キャリアアップ研修Ⅲ別表

研修内容	場 所	日 数	備 考
「わたしが選ぶ」校外研修	校長と相談し、決定する	1日	自校以外での研修を原則とする。長野県総合教育センターで実施される研修講座を受講することもできる。
校 内 研 修	在勤校	1日	自分の得意とするスキルについて校内研修会を企画する。

2 キャリアアップ研修Ⅲの対象者について

(1) 対象となる者

昭和49年4月2日以降生まれの者の中で、キャリアアップ研修Ⅱ（中堅教諭等資質向上研修／旧10年経験者研修）を修了した者のうち、次のア、イのいずれかに該当する者。

ア 採用から20年目以上（採用からの年数に、育児休業等のいわゆる除算は適応しない）になる教諭等でキャリアアップ研修Ⅲを修了していない者（猶予者※¹及び休止者※²を含む）。おもに平成19年度採用者。

イ 長野県又は他県で教諭等として採用された後、一旦退職し、再度本県に教諭等として採用された者のうち、令和8年度において在職期間の合計（退職前の在職期間を含む）が20年以上となり、キャリアアップ研修Ⅲに相当する研修を修了していない者。

※1 猶予者…令和7年度のキャリアアップ研修Ⅲの対象者で、当該研修を猶予された者。

※2 休止者…年度途中で休止願が出され、令和7年度末まで、キャリアアップ研修Ⅲの一部が未受講となっている者（再開する場合は、再開願の提出が必要）。

(2) 猶予について

対象者が健康上のやむを得ない事由等で全ての研修を実施できない場合、校長は、長野県総合教育センター教職教育部長に電話連絡をした上で、指定研修の猶予に係る電子申請を行う。また、電子申請送信直後の画面から出力可能なPDFファイル（様式第40号）を出力し、所属校で保管する。

ただし、前年度の対象予定者調査票に「猶予予定」と回答した場合は、連絡・申請の必要はない。新年度、調査時と変更になった場合のみ連絡・申請する。

【調査時と変更になった場合のみ提出】

提出期限 令和8年4月15日（水）

＜研修猶予の例＞

- ◇産休、育休中（年度内に産休、育休に入ることがあらかじめ分かっている場合も含む）
- ◇療休、介護休暇等
- ◇内地留学、長期校外研修
- ◇日本人学校勤務、団体役員専従期間
- ◇健康上、受講不可能な場合
- ◇育休明け1年未満で研修の実施が困難であると本人からの申し出があった場合
- ◇育児短時間勤務等により、終日の研修を受講することができない場合
- ◇その他、県教育委員会が認めた場合

※ 対象者の指定については、長野県総合教育センターが行う。

※ 前年度の対象予定者調査時と変更があった場合は、長野県総合教育センター教職教育部へ連絡し、相談すること。

(3) その他

信州大学教育学部附属学校園勤務、長期研修（内地留学・信教研究所等）等、研修実施が困難なことが4月以降に判明した場合は、対象者の前年度所属校の校長と総合教育センターで協議の上、必要に応じ、対象者の前年度所属校の校長は、指定研修の猶予に係る電子申請を行う（その際、送信直後の画面から出力可能なPDFファイル（様式第40号）を出力し、前年度所属校で保管する）。

Ⅱ

研修の実施

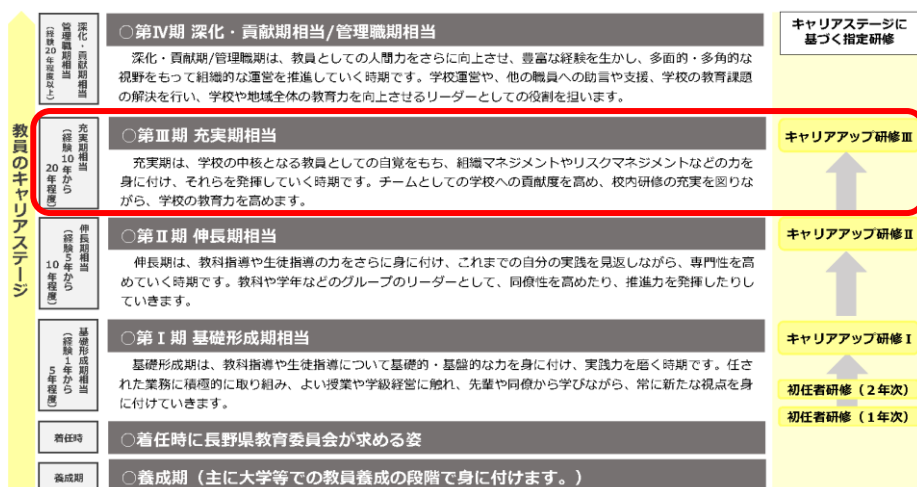
自己の学びを生かして校内研修の中核を担う

1 研修のねらい

- ・学校の中核となる教員としての自覚をもち、組織マネジメントやリスクマネジメントなど、ミドルリーダーに求められる実践力を向上させる。
- ・充実期の教員としての専門性や人間性を高めるとともに、自己の学びを生かして校内研修の充実を図りながら、学校全体の教育力を高める。

- ① 意識の改革
「自覚する」
- ② 専門性の向上
「深まる」
- ③ 学校への貢献
「経験や学びを共有する」

これらを意識して、
実りある研修にしましょう。



2 研修一覧

研修名	研修場所	日数	期日	旅費の請求先
「わたしが選ぶ」 校外研修 【専門性の向上】	校長と相談し、決定する	1日	年間 (6月～2月)	(小・中・義) 義務教育課 小中旅費審査担当 (県立学校) 各校
校内研修 【学校への貢献】	在勤校	1日	年間 (6月～2月)	—

3 研修の内容

(1) 研修の準備

- ・対象者は、長野県総合教育センターホームページから「セルフチェックシート」をダウンロードして入力し、自身の身に付けてきたスキルを確認するとともに、今後のキャリアアップに向けた見通しをもつ。
- ・対象者は、校長との面談を通し、キャリアアップ研修Ⅲのねらいを実現するための研修計画を立案する。
- ・研修の計画は「キャリアアップ研修Ⅲ計画書」(以下「計画書」という。)に記入する。計画書を作成する段階で未定の部分は、およその内容でよい。
- ・校長は、対象者の研修計画について指導・助言をし、「計画書」を提出期限までに所定の機関に提出する。(P.10を参照)
- ・「計画書」の提出期限は、令和8年6月12日(金)とする。

(2) 研修の実施

① 「わたしが選ぶ」校外研修

対象者は校長と相談し、これからのキャリアアップのため、今、最も必要と思われる研修を行う。

- ・自校以外での研修を原則とする（旅費の支給は県内分のみとなる）。
- ・研修の実施は、授業に影響のないよう、長期休業等で工夫する。
- ・研修例：研究実践校の視察、専門的な技能を持つ人から学ぶ 等
- ・研修の目的、研修の概要、研修で得た成果(報告書のみ)を「キャリアアップ研修Ⅲ 計画書・報告書(様式1)」(以下「報告書」という。)に記入する。
- ・長野県総合教育センターの、義務キャリアアップ研修Ⅱ対象講座から選択し受講することもできる。

② 校内研修

- ・自分の得意とする分野(スキル)について校内研修を自身で企画し、実施する。
- ・研修の目的、研修の概要、研修で得た成果(報告書のみ)を「キャリアアップ研修Ⅲ 計画書・報告書(様式1)」(以下「報告書」という。)に記入する。

(参考) 校内研修の例

- ・地域を題材とした学習の紹介
- ・自校の体力テストの分析と考察をもとに生徒の体力向上のための研修
- ・食物アレルギーによる症状出現時の対応の研修
- ・児童の科学的な興味関心を高める教材づくりの紹介
- ・音楽会前の指揮法講習会
- ・外国語活動の学習指導についての実践の紹介
- ・Q-U検査の分析と活用についての研修
- ・ICTの効果的な活用について校内の情報機器を用いての研修
- ・発達障がいのある児童生徒の支援のあり方についての研修

等

(3) 研修のまとめ

- ・対象者は、長野県総合教育センターホームページから「セルフチェックシート」をダウンロードして入力し、一年間の研修を振り返りながら、今後のキャリアアップについて見通しをもつ。
- ・対象者は、今後のキャリアアップについて記入し、報告書を作成する。
- ・「計画書」提出後、研修の実施内容等が変更となった場合は、「報告書」に実施した内容等を記入する。
- ・校長は、対象者の今後のキャリアアップについて指導・助言をし、「報告書」を完成させる。
- ・校長は、「報告書」を所定の機関に提出する(P.10を参照)。
- ・「報告書」の提出期限は、令和9年2月16日(火)とする。

4 研修の欠席・休止等について

(1) 「わたしが選ぶ」校外研修の欠席について

長野県総合教育センターで実施する研修講座を充てる場合、対象者が学校行事や健康上のやむを得ない事由等で研修を欠席するとき、校長は、長野県総合教育センター教職教育部長に電話連絡をした上で、欠席・遅刻・早退に係る電子申請を行う。また、電子申請送信直後の画面から出力可能なPDFファイル（様式第60号）を出力し、所属校で保管する。

なお、代替研修については、電子申請後に長野県総合教育センター教職教育部より連絡を受け、協議し、年度内に当該研修を修了できるように調整する。

(2) 研修の休止・再開等について

ア 対象者が健康上の理由等により、指定された年度途中に研修を継続することができないと判断する場合、校長は、長野県総合教育センター教職教育部長に電話連絡をした上で、休止に係る電子申請を行う。また、電子申請送信直後の画面から出力可能なPDFファイル「指定研修休止願（様式44）」を出力し、「指定研修報告書（休止者用）（様式4）」と合わせて所管の教育委員会に3部提出する（特別支援学校は特別支援教育課に1部、県立中学校は学びの改革支援課に1部提出する）。

イ 翌年以降、研修を再開する場合、校長は、長野県総合教育センター教職教育部長に電話連絡をした上で、再開に係る電子申請を行う。また、電子申請送信直後の画面から出力可能なPDFファイル「指定研修再開願（様式45）」を出力し、所管の教育委員会に3部提出する（特別支援学校は特別支援教育課に1部、県立中学校は学びの改革支援課に1部提出する）。

＜研修休止の例＞

- ◇産休、育休
- ◇療休、介護休暇等
- ◇健康上、受講不可能な場合
- ◇その他、県教育委員会が認めた場合

ウ 指定研修休止者が異動する場合、所属校の校長は、異動先の学校（以下「新任校」という）の校長に、指定研修休止の旨を連絡するとともに、休止者の異動に係る電子申請を行う。また、電子申請送信直後の画面から出力可能なPDFファイル「指定研修休止者異動届（様式46）」を出力し、所管の教育委員会に3部提出する（特別支援学校は特別支援教育課に1部、県立中学校は学びの改革支援課に1部提出する）。

なお、指定研修休止者が、長野市立小中学校へ異動する場合、管轄機関（学びの改革支援課（特別支援学校教諭は特別支援教育課、養護教諭は保健厚生課）・長野県総合教育センター、長野市教育委員会）は協議によって、指定研修休止者が受講する研修を指定する。

5 提出書類について

(1) 学校長

提出書類	提出先	提出期限	部数
1	キャリアアップ研修Ⅲ計画書（様式1）	6月12日（金）	3部
2	キャリアアップ研修Ⅲ報告書（様式1）	2月16日（火）	3部
3	指定研修休止願（様式44） 指定研修報告書（休止者用）（様式4）	休止決定段階	3部
4	指定研修休止者異動届（様式46）	3月末	3部
5	指定研修再開願（様式45）	再開決定段階	3部

※ 特別支援学校は特別支援教育課に1部、県立中学校は学びの改革支援課に1部提出する。

(2) 市町村等教育委員会

提出書類	提出先	提出期限	部数
1	キャリアアップ研修Ⅲ計画書（様式1）	6月19日（金）	2部
2	キャリアアップ研修Ⅲ報告書（様式1）	2月24日（水）	2部
3	指定研修休止願（様式44） 指定研修報告書（休止者用）（様式4）	受領整理後	2部
4	指定研修休止者異動届（様式46） （管轄外への異動のとき） 指定研修休止願（様式44） 指定研修報告書（休止者用）（様式4）	3月末 異動先の教育委員会 受領後	2部 1部
5	指定研修再開願（様式45）	受領整理後	2部

(3) 教育事務所

提出書類	提出先	提出期限	部数
1	キャリアアップ研修Ⅲ計画書（様式1）	受領整理後	1部
2	キャリアアップ研修Ⅲ報告書（様式1）	受領整理後	1部
3	指定研修休止願（様式44） 指定研修報告書（休止者用）（様式4）	受領整理後	1部
4	指定研修休止者異動届（様式46） （管轄外への異動のとき） 指定研修休止願（様式44） 指定研修報告書（休止者用）（様式4）	3月末 異動先の教育事務所 受領後	1部 1部
5	指定研修再開願（様式45）	受領整理後	1部

(4) 学びの改革支援課、特別支援教育課

養護教諭計画書及び報告書（様式1）を、受領次第、保健厚生課に提出する。

Ⅲ

作成・提出書類 (様式集)

※様式（PDF 形式、Word 形式）は、長野県総合教育センターのホームページからダウンロードできます。

長野県総合教育センターHP トップページ
<https://www.edu-ctr.pref.nagano.lg.jp/>
研修→指定研修→キャリアアップ研修Ⅲ

(様式1)

キャリアアップ研修Ⅲ (計画)・報告書

この様式は、計画書と報告書を兼ねています。計画書の提出の際、計画書の保存をしておくようお願いします。

学校名	学校	対象者 職名・氏名	.
キャリアアップ研修Ⅲ実施に向けて			
目的：充実期の教員としての資質能力の向上、ミドルリーダーとしての実践力の獲得			
・校長との面談で指導・助言されたこと ・研修実施に向けた願い			
「わたしが選ぶ」校外研修			
研修名			
研修の計画と記録	<研修の目的>		
	<研修の内容> (期日、研修場所、指導者等)		
	<研修で得た成果> (報告書提出時のみ)		
校 内 研 修			
※本研修は、自分の得意とするスキルについて校内研修会を企画・実施するものです			
研修の計画と記録	<研修の目的>		
	<研修の概要> (期日、対象者、研修方法等)		
	<研修で得た成果> (報告書提出時のみ)		
今後の展望や、さらに身に付けたい力について (報告書のみ)			
校 長 の 意 見 (報告書のみ)			
本校研修対象者 _____ の研修 (計画・報告) 書を作成し提出します。			
立		学校 校長	
年 月 日			

(様式4)

キャリアアップ研修Ⅲ 報告書 (休止者用)

この様式は、当研修を休止するにあたり進捗状況を記入するための報告書になります。研修を終えた欄のみ、にチェックをし、実施日や内容を記載してください。(未実施の研修の欄は、空欄のままにしておいてください)

学校名	学校	対象者 職名・氏名	.
キャリアアップ研修Ⅲ実施に向けて 目的：充実期の教員としての資質能力の向上、ミドルリーダーとしての実践力の獲得			
・校長との面談で指導・助言されたこと ・研修実施に向けた願い			
<input type="checkbox"/> 「わたしが選ぶ」校外研修			
研修名			
研修の計画と記録	<研修の目的>		
	<研修の内容> (期日、研修場所、指導者等)		
	<研修で得た成果> (報告書のみ)		
<input type="checkbox"/> 校 内 研 修			
研修の計画と記録	<研修の目的>		
	<研修の概要> (期日、対象者、研修方法等)		
	<研修で得た成果> (報告書のみ)		
校 長 の 意 見			
本校研修対象者 _____		教諭の上記記載の研修が終了したことを証明します。 年 月 日	
立		学校 校長	

※この用紙は、研修再開時まで休止者本人も保存すること。

(様式第40号)

	初任者研修 2年次研修
	キャリアアップ研修Ⅰ
	キャリアアップ研修Ⅱ
	キャリアアップ研修Ⅲ

指 定 研 修 猶 予 願

総合教育センター所長 様

学校コード番号	
---------	--

学校名

校長名

このことについては、下記のとおりです。

記

対象者氏名	職 名	職 員 番 号

猶 予 の 事 由

関係教育委員会 様

学校 校長

指定研修休止願

下記のとおり、本校対象者について研修の休止を願います。

記

対象者氏名	職名	職員番号
休止する研修		
休止の理由		
行っていない研修		

※現在まで行った研修が分かるよう、報告書を添えて提出する。

※この用紙は、研修再開時まで休止者本人も保存する。

関係教育委員会 様

学校 校長

指定研修再開願

下記のとおり、本校対象者について研修を再開願います。

記

対象者氏名	職名	職員番号
再開する研修		
休止したときの勤務校		
研修を休止した日		
研修を再開する日		
これから行う予定の研修		

関係教育委員会 様

学校

校長

指定研修休止者 異動届

下記のとおり、指定研修休止者(「指定研修休止願」が受理された対象者)の異動を報告します。

記

対象者の職氏名	職 名		氏 名	
現在の勤務校				
異動先の学校	該当教育事務所			
	郡 市 名			
	学 校 名			
休止している研修				
休止の理由				
行っていない研修				

	初任者研修(年次)
	キャリアアップ研修Ⅰ
	キャリアアップ研修Ⅱ
	キャリアアップ研修Ⅲ
	校長・教頭研修

指 定 研 修 講 座 届

総合教育センター所長 様

学校コード番号				
---------	--	--	--	--

学校・園名

校長・園長名

電話番号

このことについては、下記のとおりです。

記

受講者氏名	職名	職員番号

講座番号	講座名	講座期間
欠席・遅刻・早退の事由		

代替研修講座

講座番号	講座名	講座期間

セルフチェックシート

キャリアアップ研修 III

※各セルフチェック項目について、「評価」の欄に1～5の自己評価を入力してください

キャリアアップ研修 III 充実期相当 (経験10年から20年程度)		キャリアアップ研修 I		キャリアアップ研修 II		キャリアアップ研修 III		キャリアアップ研修 IV					
学校名	氏名	職名	所属	所属	所属	所属	所属	所属	所属				
<p>理念指標</p> <p>高い倫理観と使命感及び確かな子ども理解 ①社会の秩序と規律を遵守し、信頼される存在 ②教員としての責務の自覚 ③子どもに関する確かな科学的知見と深い人間愛</p> <p>確かな人権意識と共感力 ①全ての人の人権を尊重する態度 ②児童生徒や保護者の思いを感じ取る力</p>		<p>振り返り自覚し絶えず意識化を図る資質能力</p>		<p>日頃の心構え</p>		<p>セルフチェック項目</p>		<p>評価</p>					
<p>実務指標</p> <p>運送委員会と協働して活動を進捗する中で、学校が地域が働き共有して学校づくりに取り組めるようになる。</p> <p>地域をフィールドにした学習を進捗するリーダーとして、自校・近隣校での実践の充実を図る。</p> <p>職務に関する最新の動向を把握したり、自分が得意とするスキルを磨いたり、力量向上を図る。</p> <p>校内教員の範となる取組を学校全体に広げていく視点で、自身の目標を具体化する。</p> <p>児童生徒の実態や地域の実情、自校の教育活動の状況等の把握に力を入れている。</p> <p>児童生徒の様々なチームや外部の専門職との連携、調整を図っている。</p> <p>後進を育てるOJTに取り組み、フアンリテーターとして校内研修を企画・運営している。</p> <p>発生日例やヒヤリハット事例を取集、周囲の学ぶ意欲を高めている。</p> <p>日頃から、教職員、地域の関係機関等が連携できる体制を整備している。</p> <p>学校の危機管理能力を高めている。</p> <p>各種調査結果のデータ等に基づいて、教育課程の実施状況、保護者や地域住民の意向等を把握している。</p> <p>創意工夫を加えて、教育課程を編成したものを「見える化」して共有する機会をつくっている。</p> <p>教育課程の編成・実施・評価・改善を行う一連のPDCAサイクルを行っている。</p> <p>同僚へ指導や助言を、周囲の学ぶ意欲を高めている。</p> <p>「素材の何に着眼し、どのような追究させればよいのか」など、素材や教材化の研究の仕方を、教員会や学年会などで示している。</p> <p>授業実践を見合ふ機会、同じ授業を同じ内容で複数の教員が行ったりするなど、授業実践を推進するための働きかけをしている。</p> <p>日々の時間の中で、周りの同僚と学び合う時間をもっている。</p> <p>校内で互いに授業を見合ふ機会を設定している。</p> <p>教材研究や指導方法について、同僚に助言を行っている。</p> <p>全校の児童生徒の学力や体力の向上につながる具体的な取組を提案し、学校全校で取り組める体制づくりをしている。</p> <p>様々な教育活動で行われている学習評価を関連付け、学校全体の成果と課題を把握している。</p> <p>教科や学年の枠を越えて自校で育てたい資質・能力を重点化し、評価の指標や方法を明確化している。</p> <p>学校内外の状況について日常的に実践を把握し、指導方針を明確化している。</p> <p>学校長に、教科担任に対して適切な指導や助言を行ったり、関係する教員、家庭、関係機関に働きかけたりして、授業実践を推進している。</p> <p>校内体制の中核として、不登校対応の方針を示し、コース会議等を通して支援の質を高めている。</p> <p>児童生徒が互いに理解・信頼し合い、自己の存在感を感じることができると期待する望ましい「集団づくり」の実践例を校内に示している。</p> <p>計画的・組織的に集団理解や対応を行うための施策や、チームによる対応のためのコーディネートをしている。</p> <p>学校の風土の改善に向けた取組を校内で推進し、児童生徒の安全・安心な学びの場の確保に取り組んでいる。</p> <p>実態調査などをもとに、自校の教員のICT活用指導力を把握している。</p> <p>学校の実態に応じた職員研修を計画的に行ったり、ICT活用に関する実践の紹介をしたりしている。</p> <p>一人一人のICT活用の経験や活用レベルに合わせた提案やアドバイスをし、教員のICT活用能力を高めている。</p> <p>積み上げた経験や教育技術を生かすこと、児童生徒に柔軟に対応し、自発的・自治的に活動できる集団づくりをしている。</p> <p>アセスメントの知見を活用し、同僚への指導助言や実践の発信等を通して、校内の特別支援教育をリードしている。</p> <p>多様な言語文化背景をもつ児童生徒を支える体制をつくり、教職員間の共通理解を深め、地域や保護者との協働を図っている。</p> <p>探究の学びの有効な事例について、近隣校との情報交換を行い、児童生徒の学びを深める効果的な実践の共有に努めている。</p> <p>地区の探究の学びを推進するリーダーとして、合同研修会等を計画的に企画・実施し、教員の資質向上に取り組んでいる。</p> <p>小・中学校間で情報交換したり、中高合同の課題研究発表会を実施したりするなど、学校種間連携を図っている。</p>		<p>キャリアステータジで身に付けるスキル</p> <p>C1 地域コミュニケーションの拠点としての学校づくり</p> <p>C2 地域をフィールドにした学習づくり</p> <p>D1 セルフマネジメント</p> <p>D2 チームマネジメント</p> <p>D3 危機管理</p> <p>D4 カリキュラム・マネジメント</p> <p>E1 教材研究 (Plan)</p> <p>E2 指導方法 (Do)</p> <p>E3 学習評価 (Check-Action)</p> <p>E4 個人への指導</p> <p>E5 集団における指導</p> <p>E6 ICT活用</p> <p>E7 インクルーシブな教育 * 日本語指導教育含む</p> <p>E8 探究の学び</p>		<p>資質能力を支えるスキル</p> <p>地域連携によるキャリア教育</p> <p>地域をフィールドにした学習を進捗するリーダーとして、自校・近隣校での実践の充実を図る。</p> <p>職務に関する最新の動向を把握したり、自分が得意とするスキルを磨いたり、力量向上を図る。</p> <p>校内教員の範となる取組を学校全体に広げていく視点で、自身の目標を具体化する。</p> <p>児童生徒の実態や地域の実情、自校の教育活動の状況等の把握に力を入れている。</p> <p>児童生徒の様々なチームや外部の専門職との連携、調整を図る。</p> <p>後進を育てるOJTに取り組み、フアンリテーターとして校内研修を企画・運営している。</p> <p>発生日例やヒヤリハット事例を取集、周囲の学ぶ意欲を高めている。</p> <p>日頃から、教職員、地域の関係機関等が連携できる体制を整備している。</p> <p>学校の危機管理能力を高めている。</p> <p>各種調査結果のデータ等に基づいて、教育課程の実施状況、保護者や地域住民の意向等を把握している。</p> <p>創意工夫を加えて、教育課程を編成したものを「見える化」して共有する機会をつくっている。</p> <p>教育課程の編成・実施・評価・改善を行う一連のPDCAサイクルを行っている。</p> <p>同僚へ指導や助言を、周囲の学ぶ意欲を高めている。</p> <p>「素材の何に着眼し、どのような追究させればよいのか」など、素材や教材化の研究の仕方を、教員会や学年会などで示している。</p> <p>授業実践を見合ふ機会、同じ授業を同じ内容で複数の教員が行ったりするなど、授業実践を推進するための働きかけをしている。</p> <p>日々の時間の中で、周りの同僚と学び合う時間をもっている。</p> <p>校内で互いに授業を見合ふ機会を設定している。</p> <p>教材研究や指導方法について、同僚に助言を行っている。</p> <p>全校の児童生徒の学力や体力の向上につながる具体的な取組を提案し、学校全校で取り組める体制づくりをしている。</p> <p>様々な教育活動で行われている学習評価を関連付け、学校全体の成果と課題を把握している。</p> <p>教科や学年の枠を越えて自校で育てたい資質・能力を重点化し、評価の指標や方法を明確化している。</p> <p>学校内外の状況について日常的に実践を把握し、指導方針を明確化している。</p> <p>学校長に、教科担任に対して適切な指導や助言を行ったり、関係する教員、家庭、関係機関に働きかけたりして、授業実践を推進している。</p> <p>校内体制の中核として、不登校対応の方針を示し、コース会議等を通して支援の質を高めている。</p> <p>児童生徒が互いに理解・信頼し合い、自己の存在感を感じることができると期待する望ましい「集団づくり」の実践例を校内に示している。</p> <p>計画的・組織的に集団理解や対応を行うための施策や、チームによる対応のためのコーディネートをしている。</p> <p>学校の風土の改善に向けた取組を校内で推進し、児童生徒の安全・安心な学びの場の確保に取り組んでいる。</p> <p>実態調査などをもとに、自校の教員のICT活用指導力を把握している。</p> <p>学校の実態に応じた職員研修を計画的に行ったり、ICT活用に関する実践の紹介をしたりしている。</p> <p>一人一人のICT活用の経験や活用レベルに合わせた提案やアドバイスをし、教員のICT活用能力を高めている。</p> <p>積み上げた経験や教育技術を生かすこと、児童生徒に柔軟に対応し、自発的・自治的に活動できる集団づくりをしている。</p> <p>アセスメントの知見を活用し、同僚への指導助言や実践の発信等を通して、校内の特別支援教育をリードしている。</p> <p>多様な言語文化背景をもつ児童生徒を支える体制をつくり、教職員間の共通理解を深め、地域や保護者との協働を図る。</p> <p>探究の学びの有効な事例について、近隣校との情報交換を行い、児童生徒の学びを深める効果的な実践の共有に努めている。</p> <p>地区の探究の学びを推進するリーダーとして、合同研修会等を計画的に企画・実施し、教員の資質向上に取り組んでいる。</p> <p>小・中学校間で情報交換したり、中高合同の課題研究発表会を実施したりするなど、学校種間連携を図る。</p>		<p>キャリアステータジで身に付けるスキル</p> <p>C1 地域コミュニケーションの拠点としての学校づくり</p> <p>C2 地域をフィールドにした学習づくり</p> <p>D1 セルフマネジメント</p> <p>D2 チームマネジメント</p> <p>D3 危機管理</p> <p>D4 カリキュラム・マネジメント</p> <p>E1 教材研究 (Plan)</p> <p>E2 指導方法 (Do)</p> <p>E3 学習評価 (Check-Action)</p> <p>E4 個人への指導</p> <p>E5 集団における指導</p> <p>E6 ICT活用</p> <p>E7 インクルーシブな教育 * 日本語指導教育含む</p> <p>E8 探究の学び</p>		<p>資質能力を支えるスキル</p> <p>地域連携によるキャリア教育</p> <p>地域をフィールドにした学習を進捗するリーダーとして、自校・近隣校での実践の充実を図る。</p> <p>職務に関する最新の動向を把握したり、自分が得意とするスキルを磨いたり、力量向上を図る。</p> <p>校内教員の範となる取組を学校全体に広げていく視点で、自身の目標を具体化する。</p> <p>児童生徒の実態や地域の実情、自校の教育活動の状況等の把握に力を入れている。</p> <p>児童生徒の様々なチームや外部の専門職との連携、調整を図る。</p> <p>後進を育てるOJTに取り組み、フアンリテーターとして校内研修を企画・運営している。</p> <p>発生日例やヒヤリハット事例を取集、周囲の学ぶ意欲を高めている。</p> <p>日頃から、教職員、地域の関係機関等が連携できる体制を整備している。</p> <p>学校の危機管理能力を高めている。</p> <p>各種調査結果のデータ等に基づいて、教育課程の実施状況、保護者や地域住民の意向等を把握している。</p> <p>創意工夫を加えて、教育課程を編成したものを「見える化」して共有する機会をつくっている。</p> <p>教育課程の編成・実施・評価・改善を行う一連のPDCAサイクルを行っている。</p> <p>同僚へ指導や助言を、周囲の学ぶ意欲を高めている。</p> <p>「素材の何に着眼し、どのような追究させればよいのか」など、素材や教材化の研究の仕方を、教員会や学年会などで示している。</p> <p>授業実践を見合ふ機会、同じ授業を同じ内容で複数の教員が行ったりするなど、授業実践を推進するための働きかけをしている。</p> <p>日々の時間の中で、周りの同僚と学び合う時間をもっている。</p> <p>校内で互いに授業を見合ふ機会を設定している。</p> <p>教材研究や指導方法について、同僚に助言を行っている。</p> <p>全校の児童生徒の学力や体力の向上につながる具体的な取組を提案し、学校全校で取り組める体制づくりをしている。</p> <p>様々な教育活動で行われている学習評価を関連付け、学校全体の成果と課題を把握している。</p> <p>教科や学年の枠を越えて自校で育てたい資質・能力を重点化し、評価の指標や方法を明確化している。</p> <p>学校内外の状況について日常的に実践を把握し、指導方針を明確化している。</p> <p>学校長に、教科担任に対して適切な指導や助言を行ったり、関係する教員、家庭、関係機関に働きかけたりして、授業実践を推進している。</p> <p>校内体制の中核として、不登校対応の方針を示し、コース会議等を通して支援の質を高めている。</p> <p>児童生徒が互いに理解・信頼し合い、自己の存在感を感じることができると期待する望ましい「集団づくり」の実践例を校内に示している。</p> <p>計画的・組織的に集団理解や対応を行うための施策や、チームによる対応のためのコーディネートをしている。</p> <p>学校の風土の改善に向けた取組を校内で推進し、児童生徒の安全・安心な学びの場の確保に取り組んでいる。</p> <p>実態調査などをもとに、自校の教員のICT活用指導力を把握している。</p> <p>学校の実態に応じた職員研修を計画的に行ったり、ICT活用に関する実践の紹介をしたりしている。</p> <p>一人一人のICT活用の経験や活用レベルに合わせた提案やアドバイスをし、教員のICT活用能力を高めている。</p> <p>積み上げた経験や教育技術を生かすこと、児童生徒に柔軟に対応し、自発的・自治的に活動できる集団づくりをしている。</p> <p>アセスメントの知見を活用し、同僚への指導助言や実践の発信等を通して、校内の特別支援教育をリードしている。</p> <p>多様な言語文化背景をもつ児童生徒を支える体制をつくり、教職員間の共通理解を深め、地域や保護者との協働を図る。</p> <p>探究の学びの有効な事例について、近隣校との情報交換を行い、児童生徒の学びを深める効果的な実践の共有に努めている。</p> <p>地区の探究の学びを推進するリーダーとして、合同研修会等を計画的に企画・実施し、教員の資質向上に取り組んでいる。</p> <p>小・中学校間で情報交換したり、中高合同の課題研究発表会を実施したりするなど、学校種間連携を図る。</p>		<p>キャリアステータジで身に付けるスキル</p> <p>C1 地域コミュニケーションの拠点としての学校づくり</p> <p>C2 地域をフィールドにした学習づくり</p> <p>D1 セルフマネジメント</p> <p>D2 チームマネジメント</p> <p>D3 危機管理</p> <p>D4 カリキュラム・マネジメント</p> <p>E1 教材研究 (Plan)</p> <p>E2 指導方法 (Do)</p> <p>E3 学習評価 (Check-Action)</p> <p>E4 個人への指導</p> <p>E5 集団における指導</p> <p>E6 ICT活用</p> <p>E7 インクルーシブな教育 * 日本語指導教育含む</p> <p>E8 探究の学び</p>		<p>資質能力を支えるスキル</p> <p>地域連携によるキャリア教育</p> <p>地域をフィールドにした学習を進捗するリーダーとして、自校・近隣校での実践の充実を図る。</p> <p>職務に関する最新の動向を把握したり、自分が得意とするスキルを磨いたり、力量向上を図る。</p> <p>校内教員の範となる取組を学校全体に広げていく視点で、自身の目標を具体化する。</p> <p>児童生徒の実態や地域の実情、自校の教育活動の状況等の把握に力を入れている。</p> <p>児童生徒の様々なチームや外部の専門職との連携、調整を図る。</p> <p>後進を育てるOJTに取り組み、フアンリテーターとして校内研修を企画・運営している。</p> <p>発生日例やヒヤリハット事例を取集、周囲の学ぶ意欲を高めている。</p> <p>日頃から、教職員、地域の関係機関等が連携できる体制を整備している。</p> <p>学校の危機管理能力を高めている。</p> <p>各種調査結果のデータ等に基づいて、教育課程の実施状況、保護者や地域住民の意向等を把握している。</p> <p>創意工夫を加えて、教育課程を編成したものを「見える化」して共有する機会をつくっている。</p> <p>教育課程の編成・実施・評価・改善を行う一連のPDCAサイクルを行っている。</p> <p>同僚へ指導や助言を、周囲の学ぶ意欲を高めている。</p> <p>「素材の何に着眼し、どのような追究させればよいのか」など、素材や教材化の研究の仕方を、教員会や学年会などで示している。</p> <p>授業実践を見合ふ機会、同じ授業を同じ内容で複数の教員が行ったりするなど、授業実践を推進するための働きかけをしている。</p> <p>日々の時間の中で、周りの同僚と学び合う時間をもっている。</p> <p>校内で互いに授業を見合ふ機会を設定している。</p> <p>教材研究や指導方法について、同僚に助言を行っている。</p> <p>全校の児童生徒の学力や体力の向上につながる具体的な取組を提案し、学校全校で取り組める体制づくりをしている。</p> <p>様々な教育活動で行われている学習評価を関連付け、学校全体の成果と課題を把握している。</p> <p>教科や学年の枠を越えて自校で育てたい資質・能力を重点化し、評価の指標や方法を明確化している。</p> <p>学校内外の状況について日常的に実践を把握し、指導方針を明確化している。</p> <p>学校長に、教科担任に対して適切な指導や助言を行ったり、関係する教員、家庭、関係機関に働きかけたりして、授業実践を推進している。</p> <p>校内体制の中核として、不登校対応の方針を示し、コース会議等を通して支援の質を高めている。</p> <p>児童生徒が互いに理解・信頼し合い、自己の存在感を感じることができると期待する望ましい「集団づくり」の実践例を校内に示している。</p> <p>計画的・組織的に集団理解や対応を行うための施策や、チームによる対応のためのコーディネートをしている。</p> <p>学校の風土の改善に向けた取組を校内で推進し、児童生徒の安全・安心な学びの場の確保に取り組んでいる。</p> <p>実態調査などをもとに、自校の教員のICT活用指導力を把握している。</p> <p>学校の実態に応じた職員研修を計画的に行ったり、ICT活用に関する実践の紹介をしたりしている。</p> <p>一人一人のICT活用の経験や活用レベルに合わせた提案やアドバイスをし、教員のICT活用能力を高めている。</p> <p>積み上げた経験や教育技術を生かすこと、児童生徒に柔軟に対応し、自発的・自治的に活動できる集団づくりをしている。</p> <p>アセスメントの知見を活用し、同僚への指導助言や実践の発信等を通して、校内の特別支援教育をリードしている。</p> <p>多様な言語文化背景をもつ児童生徒を支える体制をつくり、教職員間の共通理解を深め、地域や保護者との協働を図る。</p> <p>探究の学びの有効な事例について、近隣校との情報交換を行い、児童生徒の学びを深める効果的な実践の共有に努めている。</p> <p>地区の探究の学びを推進するリーダーとして、合同研修会等を計画的に企画・実施し、教員の資質向上に取り組んでいる。</p> <p>小・中学校間で情報交換したり、中高合同の課題研究発表会を実施したりするなど、学校種間連携を図る。</p>	
<p>セルフチェックのまとめ</p>				<p>経験や研修を積み重ねていく資質能力</p>									

長野県特別支援学校教員養成指標兼セルフチェックシート (Ver.1.1)

(記入日: 令和 年 月 日) 職: 氏名

※ 専門性を高めるべく上で身に付けておきたいスキル一覧 (評価欄には、「1」→聞いたことがある、「2」→研修等を受けたことがある、「3」→内容を説明できる ※ 聞いたことがない場合は空欄)

自立活動に関わる専門的知識・指導	教育相談に関わる知識・実践力	コーディネーターに関わる知識・実践力	コーディネーターに関わる知識・実践力	学校マネジメントに関わる知識・実践力	進路指導に関わる知識・実践力	評価
<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の指導の計画と実践、指導の助言 障がいの理解と支援に関わる理解と助言 個別の指導計画の作成のポイントの理解と助言 実態に合わせた個別の指導計画の作成と助言 アセスメントの理解・実施と個別の指導計画への助言 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談資料 (文部科学省) 学校教育法施行令の理解 (22条の3) 障がいのある児童生徒の就学についての理解 文部科学省 756号 (通知) 文科初等 756号 (通知) 児童生徒支援体制の確立 提供に関わる助言 	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターの役割の理解と実践 地域連携との連携 (支援マップの理解) と実践 委員会等の運営 危機管理の運営 連絡先との連携 児童生徒支援体制の構築 学びの場の理解と合理的配慮 (各教育課程と指導) の提供に関わる助言 	<ul style="list-style-type: none"> コーディネーターの役割の理解と実践 地域連携との連携 (支援マップの理解) と実践 委員会等の運営 危機管理の運営 連絡先との連携 児童生徒支援体制の構築 学びの場の理解と合理的配慮 (各教育課程と指導) の提供に関わる助言 	<ul style="list-style-type: none"> 職員間の連携 教育課程の理解と教育課程の編成の実践 保護者との連携 危機管理の運営 防犯に関わる理解と実践 ジョブコーチの活用 障がい者就業・生活支援センターとの連携 移行支援会議の開催と移行支援の実践 卒業支援の実践 	<ul style="list-style-type: none"> 法定雇用率の理解 企業就労とハローワークの手続きの理解と実践 障がいの支援区分 認定の理解 福祉就労の制度の理解 重要制度に関わる理解と実践 障がい者就業・生活支援センターとの連携 移行支援会議の開催と移行支援の実践 卒業支援の実践 カウンセリングマインドの理解と実践 	<p>評価</p>
共通						評価

視覚	聴覚	知覚	身体不自由	病弱	評価
<ul style="list-style-type: none"> 聴のつくりと伝えるしくみ 視覚機能検査の方法 聴覚と日常生活の注意事項 点字について 点字指導について 聴覚による観察と教材教具 ハートンブリーダーと点字器について 点字の基本 点字プリンターの活用 歩行に関わって オーションプログラムの活用 聴覚の活用 歩行指導について 室内歩行と白杖歩行、手引さきについて 盲導犬の理解と体験 聴覚について 聴覚の見える方と教材教具 (聴覚体験) 聴覚補助具 (拡大読書器、単語帳等) について OICTについて ICT教育とICT機器の活用 読み上げソフトの理解と活用 デジタル教科書 (UDブラウザ、デザイン) について 聴覚的教材 (スボーツ) について 全国盲学校体育連盟主催大会の競技種目 全国障害者スポーツ大会の競技種目 パラリンピックの競技種目 日常生活指導について 看番舎の教育 日常生活の工夫 (便利グッズ、アイマスク体験等) 外部との連携に関して 視覚障がいと福祉・医療 生涯教育と職業教育 職業に関すること 重要障がい児 (知的障がいを含む) の指導 	<ul style="list-style-type: none"> 言語指導 発音発語 読み、読解 作文 「9歳の壁」 教科での言語指導 聴覚活用 きこまの仕組み 聴覚障がいの種類 オーションプログラムの活用 聴覚障がいのきこえ 補聴器と人工内耳 補聴器活用システム 聴覚測定 聴覚について コミュニケーション 聴覚障がいの心理 手話の技能 筆談・文字情報の技能 授業に関すること 重要障がい児 (知的障がいを含む) の指導 	<ul style="list-style-type: none"> 障がいの特性について 知的障がいの理解 発達障がいの理解 強度行動障がいの理解と予防 アセスメントと指導について 講義 (WISC-IV知能検査、日本版K-ABC II等) の理解 応用行動分析の実践 NCプログラムの実践 木田ステーションの活用 自立活動に関すること 動作法を活用した指導 授業に関すること 日常生活の指導 遊びの指導 生活単元学習 作業学習 ソーシャルスキルトレーニング (SST) の指導 教科書 (教科書) について 支援について コミュニケーションの活用 言語指導 指導について 知的障がい児の指導 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に関すること 安全な移動、移乗について 日常生活に必要な基本動作について (排泄、更衣、清潔、衛生等) 身体不自由児の指導について 車いす、義足、立位台、座面保持装置、歩行器、歩行補助杖等 健康面に関すること 体温の維持・調整に関すること 自立活動に関すること 身体不自由児の自立活動の指導の実践 ボジョニング 姿勢の保持と運動、動作 補助具、補助手段の活用 リハビリテーション 補助代替コミュニケーション機器の活用 型型 I・型型 II (書字、体育、音楽、図工、ICT等) 型型 III ※ 知的障がい児参照 型型 IV ※ 知的障がい児参照 外部との連携に関すること 医療的ケアの実践 PT、OT、STの実践と連携 交流及び共同学習の実践 重要障がい児の生活 	<ul style="list-style-type: none"> 障がいの理解と支援の実践 慢性疾患の理解と支援 心身症、精神疾患のある児童生徒の理解と支援 発達障がいの理解と支援 自閉症スペクトラム障がいの理解と支援 学習障がいの理解と支援 選択性かん黙のある児童生徒の理解と支援 医療的ケアの実践 学校 (教員、看護師) が行える医療的ケアの内容 医療との連携 医療方針に沿った支援方法 病院カンファレンスでの連携 支援会議での連携 指導法 教育カウンセリングの視点と手法 ICTを活用した進路指導の実践 集団との関わり 対人関係ゲームやグループSSTの実践方法 授業に関すること 授業のUD化、少人数の環境での指導方法 不登校や学習空白のある児童生徒に応じた学習教材 優学支援 地域校への復学の意義と支援 キャリア教育・移行支援 卒業支援の実践 	<p>評価</p>
自立活動を主とした教育課程による指導					評価
<ul style="list-style-type: none"> 車いすの介助 ヘルプボードの指導 ボジョニングの理解 構造的指導法、動作法・リラクゼーション等の指導 補助代替コミュニケーション機器の活用 認知の特長に配慮した教材と働きかけの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な移乗 人工呼吸器の理解と実践 感染予防の理解と実践 ICTの活用 (視覚入力装置、OAK等) 家出の見取り、受け止め方 	<ul style="list-style-type: none"> 障音基礎年金 (制度) の理解 福祉制度と福祉施設の実践 特別支援学校の教育課程と留置事項 小中学校特別支援教育コーディネーターの役割 	<ul style="list-style-type: none"> 障音基礎年金 (制度) の理解 福祉制度と福祉施設の実践 特別支援学校の教育課程と留置事項 小中学校特別支援教育コーディネーターの役割 	<ul style="list-style-type: none"> 就学の仕組みと制度の理解 就学奨励費の仕組みの理解 交流及び共同学習の理解 保護者支援 (障がい受容、社会資源の提供) 	<p>評価</p>

共通 (基礎的事項)	キャリアステージにおいて身に付けるべきスキル (長野県教員養成指標より)
<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の理解 個別の指導計画の理解 ICT機器の活用 同時双方向型授業の実施に関わるスキルの理解 	<ul style="list-style-type: none"> 深化・貢献期/管理職期は、教員としての人間力をさらに向上させ、豊富な経験を生かし、多面的・多角的な視野をもって組織的な運営を推進していく時期です。学校運営や、他の職員への助言や支援、学校の教育課題の解決を行い、学校や地域全体の教育力を向上させるリーダーとしての役割を担います。 充実期は、学校の中核となる教員としての自覚をもち、組織マネジメントやリスクマネジメントなど多くの力を身に付け、それらを教員としていく時期です。チームとしての学校への貢献度を高め、校内研修の充実を図りながら、学校の教育力を高めます。 伸張期は、教科指導や生徒指導の力をさらに身に付け、これまでの自分の実践を見直しながら、専門性を高めながら、専門性を高めながら、推進力を発揮したりしていきます。 基礎形成期は、教科指導や生徒指導について基礎的・基礎的な力を身に付け、実践力を磨く時期です。任せられた業務に積極的に取り組み、先輩や同僚から学びながら、常に新たな視点と身に付けていきます。 新任時

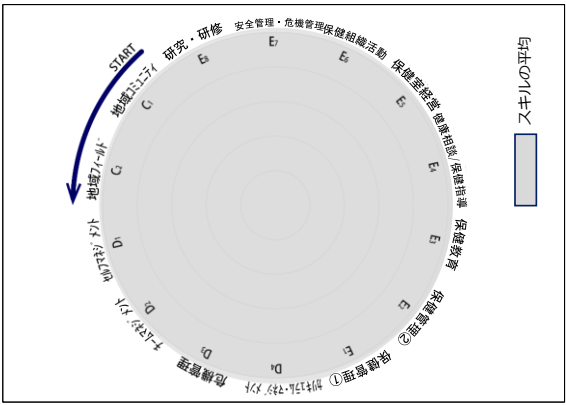
セルフチェックシート (養護教諭)

キャリアステージ
III 充実期相当
(経験10年から20年程度)

学校名 _____

氏名 _____

職名 _____



セルフチェックのまとめ

キャリアアップ研修III

理念指標	繰り返し絶えず意識化を図る資質能力		日頃の心構え
A 高い倫理観と使命感及び確かな子ども理解 ①社会の秩序と規律を遵守し、信頼される存在 ②教員としての責務の自覚 ③子どもに関する確かな科学的知見と深い人間愛			
B 確かな人権意識と共感力 ①全ての人の人権を尊重する態度 ②児童生徒や保護者の思いを感じ取る力			
実務指標	キャリアステージで身に付けるスキル	セルフチェック項目	評価
運C 連携・地域協働・協働社務などとして力	C1 地域コミュニティの拠点としての学校づくり C2 地域ネットワークづくり	・児童生徒や保護者の思いを感じ取る力 ・子どもたちが社会や職業に関する体系的な学習を行い、地域の人々とともに学ぶ機会を中心に据えた教育活動を行う。 ・地域ネットワークを活用し、自校・近隣学校での実践的学習を推進する。	地域の方々と話し合う機会を設け、学校経営に反映させたり、学習支援ボランティアによる支援の充実を図ったりしている。 教員会や学年会に地域の教育資源や学習環境を紹介し、その効果的な活用について助言している。 社会や職業に関する体系的な学習を行い、地域の人々とともに学ぶ機会を中心に据えた教育活動を推進している。 地域素材を積極的に活用し、これまでに実践(題材や人材)を蓄積したり、持続可能な体制づくりを進めている。 より工夫した実践に挑戦するために、近隣学校の取組に関心をもち、種間的に情報交換し合ったりしている。 保護者や地域の関係者との連携を積極的に図り、学校全体で地域資源を活用した自らの生き方を考える学習を推進している。
D 目標実現に向けて、柔軟に対応する力	D1 セルフマネジメント D2 チームマネジメント D3 危機管理 D4 カリキュラム・マネジメント	・職務に関する最新の動向を把握したり、自分が得意とするスキルを磨いたりして、力量向上を図る。 ・学校経営に積極的に参画し、自校の教育活動の状況や目的を把握しながら、校内の様々なチームや外部の専門職との連携、調整を図る。 ・発生事例やヒヤリハット事例を取集・分析することの研修を企画したり、危険を想定した訓練を行った上で、学校の危機管理能力を高める。 ・児童生徒や地域の方々の状況に関するデータ等に基づき、教育課程の編成・実施・評価・改善を行うこと。	最新の教育情報を取り入れながら、自身の力量向上に努めている。 自身が得た教育情報を同僚に伝え、広めていく視点で、自身の目標を具体化している。 校内教員の範疇と地域との連携を強化し、自校の教育活動の状況を把握している。 児童生徒の様々なチームや外部の専門職との連携、調整を図っている。 校内の様々なチームや外部の専門職との連携、調整を図っている。 後進を育てるOJTに取り組み、フロンティアラーとして校内研修を企画・運営している。 発生事例やヒヤリハット事例を取集し、分析している。 日頃から、教職員、地域の関係機関等が連携できる体制を整備している。 学校の危機管理能力を高める研修を行っている。 各種調査結果のデータ等に基づいて、教育課程の実施状況、保護者や地域住民の意向等を把握している。 創意工夫を加えて、教育課程を編成したものを「見える化」して共有する機会をつくらせている。 教育課程の編成・実施・評価・改善を行う一連のPDCAサイクルを行っている。 教育実践の結果から導き出した健康課題について、自分の健康状態や問題に気付くように発信している。 児童生徒の抱える健康課題を捉え、専門的な視点で校内外の関係機関と連携し組織化している。 現代的な健康課題を抱える児童生徒に必要な支援を、専門的な視点で校内外の関係機関と連携し組織化している。 ICT端末やクラウド等を活用し、地域や保護者、関係機関と連携しながら、効果的な取組を行っている。 特別な配慮を要する児童生徒の支援体制を、養護教諭の視点で評価している。 健康相談等から見える課題の解決に必要な支援につなげている。 教科等横断的な指導を取り入れて実施している。 児童生徒の実践力に結びつく効果的な保健教育を行っている。 児童生徒の実践力に結びつく授業を構築し、評価・改善により、より良い保健教育を推進している。 健康相談・保健指導に必要な援助資源の情報を収集・活用し、関係者間のネットワークを構築している。 学校内外の関係者との即時的継続的な相談支援体制の構築においてコーディネーターの役割を果たしている。 健康課題の解決に向け、児童生徒の意思決定力や自己解決能力の育成を図っている。
E 「養護教諭」としての高度な知識や技能	E1 <保健管理①> E2 <保健管理②> E3 <保健教育> E4 <健康相談/保健指導> E5 <保健室経営> E6 <保健組織活動> E7 <安全管理・危機管理> E8 <研究・研修>	・保健管理の充実に向けて保護者や関係機関と連携し、組織的に取り組み、コーディネーター的役割を果たす。 ・ICT端末やクラウド等を活用し、地域や保護者、関係機関と連携しながら、効果的な取組を行う。 ・教科横断的な指導を取り入れる。 ・児童生徒の実践力に結びつく効果的な保健教育を行う。 ・個別の健康課題の解決に向け、児童生徒の意思決定力や自己解決能力の育成を図る。 ・学校内外の関係者との即時的継続的な相談支援体制の構築においてコーディネーターの役割を果たす。 ・学校保健活動における保護者のセンター的役割を理解し、学校内外の関係者と連携しながら組織的な保健室経営を行う。 ・児童生徒の健康課題解決のために、保護者や関係機関と効果的に連携、調整し、専門的な立場から積極的に企画・運営に参画する。 ・研修会や想定訓練の企画・運営を積極的に引き、学校の危機管理能力の向上を図り、危険を見逃すことに対処する。 ・事件・事故が発生した場合に適切かつ迅速に対処する。	学校の内外の状況について日常的に実態を把握し、具体的方策を明確化している。 学校内外の関係者と連携しながら組織的な保健室経営を行っている。 学校保健活動における保護者のセンター的役割を理解している。 計画的・組織的に児童生徒理解やその支援を行うための方策をコーディネートしている。 児童生徒の健康課題解決のために、保護者や学校内外の関係機関との連携を図り、組織的な活動を企画・運営している。 地域の健康課題解決に向けたマネジメント力を発揮し、地域の関係者と連携して活動を推進している。 事故発生事例を分析し、課題解決に向けて積極的に提案・改善を行っている。 研修会や想定訓練の企画・運営を積極的に引き、学校の危機管理能力の向上を図り、危険を見逃すことに対処している。 事件・事故が発生した場合に適切かつ迅速に対処している。 自らの養護実践を研究的にまとめ学校内外の関係者に発信している。 専門性を深化・拡充するための自己研鑽に努めている。 自らの養護実践や、学校としての組織的な取り組み内容や方法について探究し、専門職としての実践をさらに高めている。

※各セルフチェック項目について、「評価」の欄に1～5の自己評価を入力してください

